

國學院大學学術情報リポジトリ「K-RAIN」

開会の挨拶：講演録：
平成30年度教育開発シンポジウム学士課程教育におけるシチズンシップ教育

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 國學院大學教育開発推進機構 公開日: 2023-02-09 キーワード: 作成者: 赤井, 益久 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.57529/00002141

平成30年度教育開発シンポジウム

学士課程教育におけるシチズンシップ教育

【日時】平成31年2月16日（土） 13：00～17：00

【会場】國學院大學渋谷キャンパス 常磐松ホール

【主催】國學院大學教育開発推進機構

【次第】

第1部 基調講演 13：10～14：10

「教養教育の過去・現在・未来—グローバル社会に求められる市民育成の課題」

羽田貴史（広島大学・東北大学名誉教授）

第2部 シンポジウム 14：25～17：00

【各大学からの報告】

「高大接続改革とシティズンシップ教育」

小玉重夫（東京大学大学院教育学研究科長、教育学部長、教授）

「RSLの理念と実践—行動する市民となるためのシチズンシップ教育」

原田晃樹（立教大学 RSL（サービスマーケティング）センター長、コミュニティ福祉学部教授）

「[政治・法と社会参加]、そしてその次—シチズンシップ教育をめぐる國學院大學の挑戦」

捧 剛（國學院大學法学部教授）

【総括討論】

司会 大久保桂子（國學院大學副学長・教務部長・共通教育センター長、文学部教授）

*所属・職名等は開催当時

開会の挨拶

（司会）ただ今より、平成30年度教育開発シンポジウム「学士課程教育におけるシチズンシップ教育」を開催いたします。開催に先立ちまして國學院大學の学長、赤井益久よりご挨拶申し上げます。

■赤井益久（國學院大學学長）

皆様こんにちは。学長の赤井でございます。本日はようこそ、教育開発推進機構主催のシンポジウムにお越しくございました。大学を代表して厚く御礼申し上げます。

皆様がいらっしゃいますこの國學院大學は、明治15年（1882年）皇典講究所という研究教育機関を母体にできております。大正9年の大学令によって、日本には8つの大学が設置認可されていますけれども、そのうちの1つでございます。本年度で137年目の歴史を迎えることになりました。主催であります教育開発推進機構は、本学においては研究開発推進機構と並びまして、平成21年（2009年）にできております。これらの機構は、研究と教育を「後押しする」という理念の下にできておまして、建学の精神をどう教育に生かすか、FD、学修支援、履修指導等を含めた学修支援体制の組織として当たっております。「建学シンポ」と当時は申しましたけども、1回目を開催しまして、設立10年ですので、隔年でシンポジウムを開催しており、本年度で5回目になります。その時々、折々のテーマにしたがってシンポジウムを設定してまいりました。当初は今申しました建学の精神をどう教育に生かすかというテーマでございました。

今回はシチズンシップ教育、学士課程におけるシチズンシップ教育と題しまして、本日4人の先生方にご講演、基調講演いただくということになっています。シチズンシップ教育につきましては、後ほど細かく議論がなされるころだと思っております。古くは大学においては一般教養教育、本学におきましては平成7年に「教養総合科目」として、そのプログラムは出発しました。その後二十数年たちまして、何度か大きな見直しを経ておりますけれども、それを4年前に見直しということで議論を始めまして、2年前に新たに共通教育として出発したところでございます。シチズンシップ教育というのは、それぞれ議論あるかと思うのですが、いわゆる教養教育といいましょうか、そういうもので捉えるのが分かりやすいのかなと存じます。本学におきましては今申しましたように、これから共通教育、制度として、また内容として鍛えていかなければならないということを痛感しております。ぜひ本日、先生方のご講演をお聞きくださり、またこれらの先生方からもご意見をいただければと思います。

本日は有意義な会にしたいと存じますので、ご協力いただければと思います。本日はありがとうございました。（拍手）

（司会）続きまして、シンポジウムを主催する教育開発推進機構機構長、柴崎和夫より、ご挨拶ならびに企画の趣旨を申し上げます。

■柴崎和夫（教育開発推進機構長・人間開発学部教授）

今ご紹介にあずかりました、本会の主催者である教育開発推進機構で機構長を務めている柴崎と申します。本日はお忙しい中、ご参加いただきありがとうございます。

今、学長からもお話がありましたが、教育開発推進機構の1つの大きな仕事としては、國學院大學の建学の精神を教育の中にどのように生かしていくかを考える、ということがありました。これまで開催されたシンポジウムでも、私立大学はどこでも建学の精神というのがありますけれども、それをどのように、かつ現代的な観点から教育に生かすか、というような視点でテーマを選んでまいりました。

今回、テーマに選んだシチズンシップ教育というのは、ちょっと考えると関係ないんじゃないかという話もあるかもしれません。けれども、國學院大學の建学の精神というのは人道精神です。それは日本人の主体性を保持した寛容性、そういう観点でわれわれは理解しておりますので、主体性を持つということは非常に大事な点でございます。また、國學院大學の教育研究の指針になっています、法人の作成した21世紀教育研究計画の中でも、主体性を持った大人を育成するというのが、この何年来の大事な國學院大學の教育のテーマになっております。当然大人というのは、まさに自立しているべきでありますので、その自立という中で、社会性、倫理性を持った学生を送り出すということになります。そう考えますと、現在高校の教育でも公共という新しい科目が開設されることになっておりますが、18歳から大人になるということで、もう選挙権はすでに18歳に与えられておりますように、市民性といいますか、大人というのは何かということ、政治だけではなくて経済も含めて、さまざまな面で自立という中に社会性、倫理性というものをあらためて大学の中でどのように学生に伝えていくかということも、非常に大事な点であると考えております。今回はそのシチズンシップ教育ということで、あとで四先生から基調講演をはじめとして報告をいただきますが、重視していますのは、こういうふうのことを表立ったカリキュラムの中で、これは共通教育ですので、國學院大學の全ての学生に学んでいただきたいと、われわれは考えているということです。いわゆるシチズンシップというような科目をまとまった形で構成しているのは、現状ではたぶん、立教大学さんとうちぐらいではないかと思えます。個別の科目としては、開設している大学さんはたくさんあるんですが、一応意図的に、理念的にそういうものを持って構成しているところはそんなに数がないのではないかと思います。

本日は、さまざまな観点から現状についての議論をいただき、お話をいただきながら、フロアの方々と今後学生たちが成長するのに、何を学び何を伝えていけばいいのかということも考えながら、皆さま方にこのシンポジウムに参加していただき、最後に少しは良かったと思っていただけることを念じております。今日、5時まで少し長いですが、よろしくお願いたします。(拍手)